



岸本県知事が 第5代連盟長に就任

2024年10月6日・アバローム紀の国で待望の推戴式を挙行



去る10月6日、アバローム紀の国2階鳳凰の間に於いて待望のボーイスカウト和歌山連盟「第5代連盟長推戴式」が挙行された。喜びの日を迎え天気も快晴。

参加者は当連盟より県連役員・団代表者・指導者・各隊スカウト・保護者等165名。ご来賓として近畿ブロック府県連盟より8名の方にご臨席いただき総勢173名で盛大に行われました。

プログラム進行は、中谷県コミッショナーが担当。「ちかいの式」では、入場を待ち受けていた参加者の盛大な拍手に迎えられ連盟旗に先導されて岸本周平知事が肅々と入場。続いて全員注視の中、力強く「ちかい」を立てていただきました。

続いてソング「永遠のスカウト」を歌い、全員決意も新たに新連盟長の就任あいさつを拝聴した。最後に

新連盟長に「弥栄」三唱をおくり、「推戴式・ちかいの式」は無事終了となった。その後、場所を移し全員で記念撮影を行いました。

第2部は、「連盟長を囲んで」と題してスカウト達との交流時間を設けました。内容は参加スカウトによる「救急担架」作り、それを用いて搬送するゲームを見ていただき、子ども達に声かけするなど楽しい時間を共有していただきました。

知事に活動に興じるスカウトの様子をしっかりと見ていただけ、スカウト活動に理解を深めていただけたのではないかと思います。

(文・事務局長 奥田 雅晴)



【組織拡充・広報委員会】



「人と地球によりよい未来を」

組織拡充・広報委員長 平井 孝朗

県連広報委員長として、日連ドリームチーム（ドリチ）に出向しております。そこで広報の話からします。世界スカウト機構（WOSM）はボーイスカウトの使命を今年、“Creating a Better World”（より良き社会を創る：地球市民が持続可能な開発目標を達成する）から、“Ready for Life”にと変更しました。この意味合いを日本語に訳すのは難しいのですが、日本連盟の広報委員会では、「人と地球によりよい未来を」と定義づけました。これは日本のスカウト運動の全般を表現するメッセージです。過去には「ここでしか学べない事がある」や「なろう。一人前に」がありました。これからは「人と地球によりよい未来を」がコンセプトとなるので、社会に貢献する青少年を育成し社会に輩出することを念頭にボーイスカウト活動をお願いしたいと思います。

次に組織拡充ですが、「ワクワク自然体験遊び」は引き続きお願いいたします。未実施団には全面的にサポートいたします。県下においてもワクワクからの入団事例が相次いでいます。また「中途退団の阻止」「ボーイ隊以上の新規加盟の促進」「特色のある団」等の施策もしておりますのでご協力をお願いいたします。最後に和歌山連盟でLINE公式アカウントを取得しリーダー向けに情報発信を行っております。登録がまだの方はQRから登録をお願いいたします

指導者向けLINEの
「QRコード」→



・紀南地区協議会だより・

田辺第1団

高尾山ハイク

田辺市の『高尾山（606m）』にビーバー8名カブ8名で登りました。登りは奇絶峡という田辺市有数の紅葉スポットからのスタートです。

延々と続く厳しい登山道を約2時間かけて登りました。山頂で田辺市街を見下ろしながら食べるお弁当は格別でした。帰りは農道をゆっくり2時間かけて下りました。

子供たちはわいわいがやがやドングリを拾いながら大人たちは話す元気もなく黙々と歩いていました。田辺市街からは一番よく見える高い山なので、登った経験を思い出し、「あの高い山に登れたんだから何でもできる！」と自信につなげてほしいです。

ビーバー隊長 亀田 旭洋



【指導者養成委員会】

ウッドバッジ研修所課程別研修（CS課程和歌山第3回）

WB研修所課程別研修（CS課程）を6月23日に和歌山市北コミュニティセンターで開催しました。参加者6名のうち、5名が昨年の和歌山・奈良合同スカウトコースの参加者、久しぶりの再会で同窓会の雰囲気の中での研修でした。

この研修は、スカウトコースに参加をされた方が、カブスカウト隊の運営、プログラム等に関する基礎的な方法を習得していただくことが目的です。

1日ですべてを伝えることは難しく、今後も隊長をはじめ、コミッショナー、トレーナーが支援をさせていただきます。（主任講師 西田 昌弘・記）



ウッドバッジ研修所課程別研修（BS課程和歌山第4回）

WB研修所課程別研修（BS課程）を10月27日に南コミュニティセンターで開催しました。今回は、参加者2名と少なかったのですが思い切って実施することにしました。

朝から夕方までの研修でしたが、真摯に取り組んでいただき有意義な研修となりました。

（主任講師 西田 昌弘・記）



令和6年9月1日 第37回BS講習会

副リーダートレーナーになって初めての主任講師の任をたまわりました。計画の段階で、多くの先輩方がセッション担当に手をあげていただき、また受講者も10名も集まり無事開催できた事に感謝しかありませんでした。

運悪く台風10号が発生し、徳島も奈良も警報が出ていましたが、奇跡的に和歌山だけはあまり影響を受けずに無事開催することができたのは、受講者の講習を受けたいという熱い思いが、きっと天に届いたのだろうと思います。

先輩講師達の事前の準備のいかにもあり、講習は問題なく順調に進み受講者の皆様にも喜んでいただきました。受講者の皆様が、今回の講習をきっかけに「スカウト活動への理解が深まり」活動への意欲が高まって、「自団の素敵なスカウト活動」につながっていただけたら嬉しいなと思っています。

主任講師：山口 昇孝・記



【国際委員会】

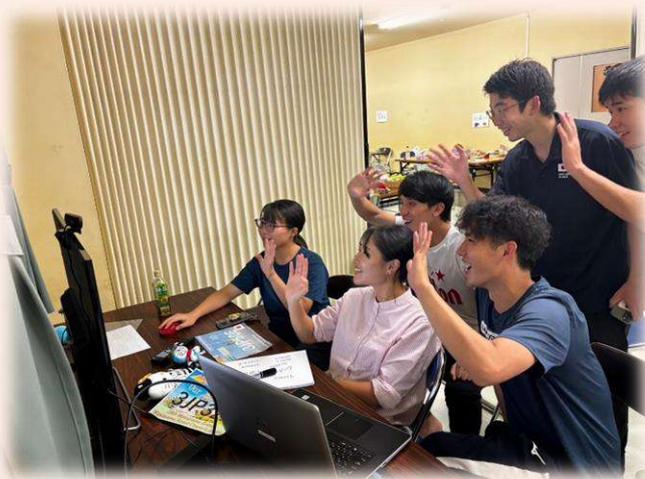
JOTA・JOTI 実施報告



毎年10月の第3金曜日から日曜日にかけて、全世界のスカウトが参加できるジャンボリーに2024年度は県連・国際委員会の行事として取り組みました。令和6年10月19日～20日、紀北青少年の家を利用して実施しました。参加スカウトは29名。10月20日には「和歌山地区ビーバーデイ」としてビーバー・スカウトも見学参加し総勢88名でした。

アマチュア無線を使って
参加するJOTA

アマチュア無線の免許を取得していなくても免許を取得しているリーダーやスカウトと一緒に体験運用として、数百km離れた他府県のスカウトと交信したり、モールス符号の練習や電波を使ったゲームで楽しい時間を過ごしました。

インターネットを使って
テレビ会議の様に
交流できるJOTI

外国のスカウトと顔を見ながら会話し、各国の紹介や一緒にソングやダンスをして楽しみました。外国との時差の関係で、深夜までの活動となりました。



地区協議会 行事報告 【紀北地区】

第18回 紀北地区キャンポリー

地区委員長 平井 孝朗

紀南の熊野の地で新宮市「小口自然の家」にて2024年8月16～18日に総勢約60名の参加者をえて第18回紀北地区キャンポリーを開催いたしました。

今回は、A1にテーマと趣旨「神聖なる熊野古道を歩き、自然と共に歴史を学ぶ」を考えてもらいました。バスに乗り込み、初日は熊野古道「小雲取越え」を登ります。ガイドブックとスタンプ帳を携え無事登り終え、キャンプ地の「小口自然の家」に到着しました。「やたがらすビレッジ」と「熊野権現ビレッジ」に分かれてサイト設営をし、夕食に熊野牛カレーを作りました。

2日目のプチ・キャニオニングで川遊びをし、ブルコギ焼肉を食べた後、営火です。炎を囲んで、熊野古道の語り部さんに熊野古道について話をしてもらいました。

3日目に閉村式とビレッジ長の解任をして小口キャンプ場を後にし、バスに乗り込みました。発心門王子から本宮大社の熊野古道の王道ルートを歩きます。無事にゴールして閉会式。めはり寿司をもらいバスで紀北に戻りました。

今回の紀北地区キャンポリーは、紀北のエリアを離れ「熊野古道の地」で行い、「登山がメイン」というキャンポリーでした。スカウトがこの体験を通じてなんらかの学びを得ることを期待しています。



紀北地区協議会「カブ大会」

「若鮎や つかんでさばいて 友達だ」 地区副コミッショナー 丹生克生

9月16日、紀北地区のカブ隊が一堂に会し「紀北地区カブ大会」を開催しました。今回は、テーマ「若鮎や つかんでさばいて 友達だ」と銘打ち、「鮎のつかみ取り」と「ネイチャーゲーム」を体験しました。

午前はこの鮎に全集中です。掴み取った鮎はスカウトたち自身で絞めて串に刺し、炭火で塩焼きにして食べてみようというものです。掴み取り自体が、また、鮎を食べるのも初めてのスカウトもいるようで、なかなか貴重な体験になったと思います。

午後からはスカウトで混成組を作り、ネイチャーゲーム「カムフラージュ」を楽しみました。ゲームに用意された「自然に溶け込む”自然でないもの”」にスカウト達も四苦八苦…。くまなく見つけようと、団や年齢を超えたスカウト同士の深い交流となることが出来ました。



那賀 第4団

紀 北 地 区 各 団 の 活 動 報 告

カブ隊の「七夕の夕べ」

カブ隊は7月7日に七夕プログラムを行いました。前日に隊長が、カブ隊リーダーの所有地から見栄えのする笹を1本とってきました。

当日、各組で笹を飾り付ける折り紙飾りや短冊作りをしました。その間にリーダー達は大量の「そうめん湯がき」をしました。笹を飾り終わった後に「スカ弁（スカウト弁当）」と一緒に美味しく食べました。スカウト達は、元気が有り余っていたので近くの公園で遊び、その後は手持ち花火を30分ほど楽しみました。程よく太陽が沈んでスカウト達も一足早い「夏の風物詩」を楽しむことができました。

カブ隊長 小西 亮平



那賀 第2団



「青洲まつり」のボーイスカウトの活動

紀の川市にある青洲の里では、毎年10月最終日曜日に「青洲まつり」という地域の祭りが行われています。

この青洲まつりは、紀の川市の旧那賀町に生まれた華岡青洲の誕生月である10月に行われる祭りで、地元の保育園の演技や屋台も多く出ており、祭りのクライマックスでは、「時代行列」が行われます。

その青洲まつりの中で那賀第2団のボーイスカウト活動も行われています。ビーバー隊・カブ隊は主に募金活動を行い、ボーイ隊・ベンチャー隊は祭りのブースを借りて、祭りに来ている一般の方に向けて火おこし体験などの体験ブースを開いています。

祭りを通じてボーイスカウトの事を知ってもらい、学校や家では体験できないことを提供し楽しんでもらう事で少しでもボーイスカウトに興味を持っていただけるように地域と協力して日々努力をしています。

BS隊長 中谷 健太郎

防災体験

伊都 第5団

10月20日(日)、体験を通じての防災学習に京都市市民防災センター行きました。

体験科目は、①強風体験(風速32mの強風下における行動の困難性を体験する) ②地震体験(震度7の横揺れを体験、地震発生時の心構えと備えを勉強する) ③避難体験(ホテル火災のリアルな再現で、普段体験できない煙の中の避難行動を体験する) ④消火体験(消火器の

取扱い方法を学び、モニターに映し出された模擬火災の消火を体験する) ⑤土砂災害体験(土砂災害の様子をリアルシアターで体験する) ⑥水圧体験(浸水した際ドアに水圧がかかり、どれだけ開けにくくなるか体験する) 防災に関する知識や災害発生時の備えの重要性を確認することをでき有意義な一日でありました。

強風体験



消火体験



水圧体験



防災ヘリ前で全員集合



大変面白かったよ！でも・まじめにしっかり学んできましたヨ。

伊都第1団

洲本スカウト団との
“友情のつどい”

11月2日～3日と兵庫県南あわじ市にあります「淡路青少年交流の家」で開催されましたBS洲本第1団70周年・GS兵庫県第2団65周年記念の交流イベント“友情のつどい”に参加してきました。洲本スカウト団と伊都第1団は創設の時の指導者が同じ指導者で兄弟のような関係の団です。

当日は、洲本団以外にBS三原第1団・BS三原第4団・GS兵庫県第95団そして伊都第1団と約180名の仲間が集まりました。

初日は生憎の雨で屋内の活動でしたが、開会式に続き友情ゲーム・ストーンペイント・夕べの集い・キャンドルサービスと盛り上がりました。2日目は快晴の中、朝の集いに始まり、イラストオリエンテーションとプログラム満載の2日間でした。たくさんのスカウトと友情を深めることができた素晴らしいイベントに参加し、スカウト達もとても感激していました。

カブ隊 隊長 目黒寿典



伊都第3団

カブ隊「海釣り」

CS隊長 中谷 和紀

11月10日、6月に雨で延期になっていた「海釣り」を実施。週間予報では雨模様でしたが、日曜日に近づくにつれて晴れに変わってくれました。当初マリーナシティに行く予定でしたが、和歌山市「jazz マラソン」の実施日で入れなく、雑賀崎に変更しての活動でした。

車5台での移動で少しずつ大所帯になっているのは気のせいでしょうか？天気は良かったものの、釣果は食べられる魚は小さい魚ばかりで、リリースしていました。それでもスカウト達は初めての海釣りだったこともあり、喜んでいました。帰ってからは親に「また行きたい」と言っていたそうです。

満潮は14:30でしたので、お昼過ぎからは少し期待していましたが、一日中変わらずで少しの釣果。昼からは雑賀崎名物の「漁船からの直売」が3時からあるため、船が次々と帰港し賑やかになってきました。おかげで釣果は全くダメでしたが、市場で購入したので「大漁」で帰宅することが出来ました。帰りがけに隊長が魚と喧嘩した事は秘密としておきます。



雑賀崎の底引き船。帰港したら船から取れたての魚を販売しています。

橋本第2回

いま出来ることを、出来る範囲で、できる限り
「団キャンプ」開催

10月19日～20日にかけて、恒例の「団キャンプ」を開催しました。

今年は例年とは違い、暑さを避けてこの10月に少し涼しさも感じられる場所を選んでのキャンプとし、かつらぎ町は天野にあります宿泊施設（旧天野小学校）をお借りしての1泊2日の舎営&野営となりました。

今回はビーバー隊からボーイ隊までの参加でしたが、舎営を行うビーバー&カブ隊も、野営になるボーイ隊も、本当に「同じ釜の飯」を食べ、初日の天候不順にも嫌事を言う事なく、年代を超えた仲間として楽しい2日間を過ごす事が出来ました。

団員全員に提供する食事（夕食・朝食）を、各隊で担当するのが橋2の伝統。今回は、カブ隊からは「ビビンバ丼」を、ボーイ隊からは「さつまいもご飯と豚汁+焼き魚の和朝食」が用意されましたが、

いずれも大変好評で完食と相成り、スカウト達も「マジで美味しい〜」の声を聞きながら誇らしげにしていました。

荒天のため、予定していたキャンプファイヤーも「ランタンファイヤー」に変更となりましたが、とても雰囲気のある夕べの集いとなり、スカウト達は火が持つ力・魅力をしっかりと感じてくれていました。

2日目は「JOTI」への初トライ！宮城県名取市の名取第1団カブ隊さんと、初めてのオンライン交流も行いました。限られた時間ではありましたが、同じ制服を着て活動する仲間だからか、距離感はゼロでした。

「ここ橋2でしか出来ない New Experience を…」。
短い2日間ではありましたが、この人数（橋2の仲間）、この場所（天野）、この施設（ゆずり葉）、そしてこの時（秋・雨天）でこそその貴重な体験・経験が出来たと思います。

カブ隊長 丹生 克生

那賀
第4団

《第37回BS講習会》
ボーイスカウト
講習会を受講して

那賀第4団
ビーバー隊副長
関本 紗代

2018年に息子がビーバー隊に入隊してからずっと保護者としてお世話になっていましたが、2023年に私がビーバー隊の副長をさせていただき、今回が初めての受講となりました。

私自身は小学生2年生から8年間ガールスカウトで、スカウトとしての経験はありましたが、ボーイスカウトについては詳しく知らなかったのもとても楽しみでした。

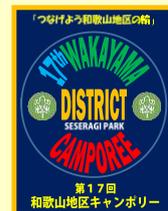
隊集会形式で講習は行われ、隊長や副長の任務やスカウトの隊集会までの準備等や流れの説明を聞き、実際に班に分かれてハイキングに出かけました。課題が仲間と協力して解けないといけないものばかり。それぞれが持っている知識を出しあって問題を解くのが楽しくて、私にはとても懐かしい時間でした。私の子供たちもみなさんのおかげで「楽しく安全」に隊集会が出来ていることを改めて感謝申し上げます。そして、私も副長としてスカウトの安全と笑顔のために出来ることをさせてもらおうと思いました。



**地区協議会
行事報告
【和歌山地区】**

第17回地区キャンポリー

・令和6年9月14日～16日
 ・和歌山市紀の川せせらぎ公園
 ・大会テーマ：「つなげよう和歌山地区の輪」



今回のキャンポリーには2日目からカブ隊も参加しカブ村で初めてのテント泊を経験しました。参加スカウト数は和24団ローバー隊を含め6ヶ団・129名。

14日の開会式は猛暑を避け16:30分から。矢田大会長の開会あいさつでいよいよ大会の開始です。

2日目のプログラムは、支給された材料でグループ毎に「投石機」づくりをし、出来上がった投石機でテニスボールを発射的に当てる競技をしました。

日が落ちて暗くなった19:00より、いよいよ待望の『ワクワクサマーナイトショー』の開幕。ご来賓としてお迎えした和歌山市から阿形教育長、県連より中谷県コミッショナーも一緒になって、各団・各隊の出

しもの(唄・ダンス・マジック・スタンツ等)を楽しんでいただきました。大会テーマ通り「地区の輪」がつながり、ひとつになって広がったのでは？

3日目に地図とコンパスを使った課題を解きながらのシティー・ハイキング。「野帳」を作成するテクニクを体験・習得が狙いです。最終目的地は、市内のスーパーマーケットでした。

カブ隊は、初日(15日)にカブ村サイトで開会式を済ませ、「紀の川大堰管理事務所」までハイキング。そこで川の役割等について講習を聞き、実際に「紀の川大堰」を見学をしました。2日目にサイトで「オニヤンマくん」づくりのクラフトを楽しみました。

(和歌山地区総務委員長 奥田雅晴)

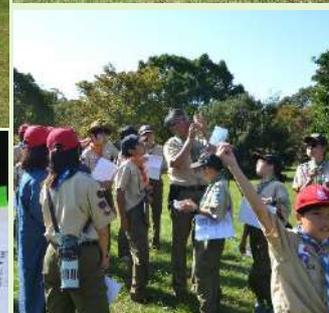


和歌山地区「ボーイラリー2024」

《スキルアップチャレンジ》

11月3日和歌山市内の河西公園において、「和歌山地区ボーイスカウトラリー」を開催しました。午前中は、「基本原画の発信」方法から50音カタカナの発信・受信を特訓しました。午後からは歩測の特訓で、10mを何歩で歩けるかを身体に覚えさせることに集中させました。参加賞として用意した「座標定規」

を使って簡易計測器を作り、立木の高さを測る練習などを行いました。日頃あまり練習できていない手旗信号の送受信もほとんどのスカウトが体得できました。今回の体験を忘れずに、日々の活動に活かしていただきたいと思います。地区副コミッショナー 赤居 憲



和歌山第14団 大漁を願って!

団委員長 土橋 弘

令和6年10月20日 西脇漁港へ釣りに行きました。大漁を希望しておりましたが、釣果は鯛程度でした。しかしスカウトのユニフォーム姿のおかげ、他の釣り人からチヌ等もらって大喜び、スカウト達は楽しかったようです。初めて釣った鯛は、大物で帰宅して記念に「魚拓」作ったそうです。「鯛の魚拓」って、初めて見ました……。

【参加者の感想文】

- ・小松 由紀子：お家に帰ってから「鯛は蒲焼き」に「チヌは煮付け」で美味しく頂きました。立花団香肩さんには、スカウト達に釣りの手解きをしてもらい大変お世話になりました。
- ・宮本 ゆか：お魚美味しかったです。副長パパ(団香肩)ありがとうございました。



和歌山第21団

「ビバー&カブ・夏の舎営」

今年から和歌山連盟と利用提携を結んだすさみ町・「琴の滝荘」でビバー隊・カブ隊キャンプを行いました。初日は白浜町日置川のリバーjusパ日置川の駐車場に車を止めて、熊毛洞窟まで平坦な岩場が続く海岸を歩きました。大きな洞窟が二つ並んであり、その中で昼食を食べました。大変暑い日でしたが中は涼しくて快適でした。午後からすさみ町の周参見海水浴場へ移動し、思い思いに自由に海水浴を楽しみました。駐車場は無料で、無料のシャワー室もあり快適でした。その後、宿舎へ移動して食事を自分たちで作り、冷房の効いた涼しい大広間で食べました。片付けの後に「木工粘土を使ったキーホルダ」と「木の実を使った置物」を作りました。良い夏休みの工作ができたと思います。

翌日は琴の滝までハイキングに出かけました。1キロほどしか無いコースにはいくつもの滝があり、涼しくて良い景色でした。ハイキングの後、水着に着替えて川遊びをしました。12時から1にちめ予定の「スイカ割り」をしました。しかしイカを間違えて冷凍庫に入れていたので「凍っていて」割れませんでした。三角に切って食べるとスイカバーになり美味しくいただきました。すばやく片付けをしてから体育館へ。近くのゲートボール場の藤棚の下で昼食のそうめんをいただきました。体育館で飛行機を組み立てて、だれが一番遠くまで飛ばすかなど楽しく遊びました。琴の滝荘は、利用条件がありますが、すさみ町からの補助もあり、オートロック付きの部屋に格安で泊まることができました。

(副団委員長 山本 幸司)

「いかだを作ったよ」



7月21日に紀の川北島橋西詰に集合しました。まずは、「雨が降ったら川はどうなる?きれいになると思う?」と川に流れ込むゴミについての話をし、体験入隊の方と一緒に河川敷の清掃をしました。

ペットボトルや瓶、お菓子の包装紙やプラスチック容器が落ちていました。拾った後はみんなでゴミを分別しました。その後、体験入隊の方は割りばし鉄砲作り、カブ隊は「いかだ作り」をしました。13本の竹棒を井形に組んでペットボトルをくくりつけました。最後に手描きの旗を立てて完成しました。

川に浮かべて1人ずつ乗ってみました。乗っても沈まず大成功でした。空は青く、川からの風も心地よく、気持ちは淡路島まで漕いでいました。

カブ隊長 新屋 美穂

和歌山
第18団

みんな仲良く清掃奉仕

和歌山第22団

毎年、当団は、和14団と一緒に、かつらぎ町上天野にある丹生都比売神社の第1駐車場の花壇整備を行っています。

10月頃に花壇の草引きを行った後、チューリップの球根や花の苗を植えます。そして、4月の初旬に花壇の草引きを再度行い、神社のお祭り（花盛祭）にやってくる方々に気持ち良く参拝してもらうよう、花壇を美しく備えています。

今年の10月に行った花壇整備では、丹生都比売神社の境内の掃き掃除の奉仕作業もさせて頂き、宮司さんから神社の歴史などについて伺いました。

丹生都比売神社は神仏習合の古い歴史を有する神社で、あらゆる宗教を排除することなく神社の敷地に迎え入れた実績により、世界文化遺産に登録されたそうです。この「みんな仲良く」という神社の思想を心にとめて、スカウト一同日も早い世界平和の実現を祈念し、御祭神である天照大御神の妹神にお祈り致しました。 **カブ隊長 隠岐 一雄**



海草第1団

海草第一団活動報告

団委員長 吉本 哲也

2024度の海草第1団は、昨年コロナ禍から脱して今年度は地域に根付いた活動をメインに取り組んでいます。

まずは5月5日に「和歌山市子どもなかよしまつり」5月20日に日本製鉄・和歌山「製鉄所祭り」見学。10月13日「射矢頭八幡宮秋祭り」10月19日～20日にかけて、団委員・リーダー・VS隊による「木ノ本八幡宮秋祭り奉仕」等に積極的に参加しスカウト活動をアピールすると共にスカウトや指導者の拡充に努めてきました。



2人のビーバーですが頑張ってます

C S隊長 大岡 三恵

昨年度、カブ隊に上進したビーバー隊は休隊となっていました。今年度は2名のビーバースカウトが入団してくれました。2名とも海南の活動の中心である浄国寺周辺のお子さんです。長子なので、下の子供達やお父さん・お母さん・お爺ちゃん・お婆ちゃんも活動に参加していただき賑やかになりました。

今回の写真は、防災のための段ボールベット作りやハウス作り、段ボールのキャタピラーで遊びました。野外料理としてアルファ米のご飯を食べ、自分の家の冷蔵庫にあるものを使って燻製作りをする事にしました。サンマの干物や海苔やチーズ等色々持ち寄って、これは美味しい・これはまあまあとか味見をして楽しみました。



海南
第1団